

【若き眸ひとみにうつれ古典】

今日の学習!

【助動詞のへ接続く】について

◇ 助動詞は、それぞれ活用語の何形にくつつくのが決まっている。
これをへ **接続く** という。例えば、助動詞「けり」は**連用形接続**。
「けり」の前には、必ず活用語の**連用形**があるということ。

(例) 竹を取りつつ、よろづのことに **使ひ** けり。

この場合、「けり」の前には、八行四段動詞「使ふ」の**連用形「使ひ」**がある。

参考

使ふ	語	は	未然形
使	語幹		
ひ	連用形	ふ	終止形
		ふ	連体形
		へ	已然形
		へ	終止形

◇へ **接続く** を覚えるメリットは、次のような問いに答えられること。

問一 次の傍線部の動詞の活用形を答えよ。
今は昔、竹取の翁といふもの**あり**けり。

ラ変動詞「あり」は**連用形と終止形が、いずれも「あり」**。

参考

あり	語	ら	未然形
あ	語幹		
り	連用形	り	終止形
		る	連体形
		れ	已然形
		れ	終止形

「どっち?」となるけれど、**答えは「連用形」**。下に「けり」が続くから。

問二 次の傍線部の助動詞の文法的意味を答えよ。
知らぬこともなし。

助動詞で「ぬ」という形があるのは、「完了」の助動詞「ぬ」と「打消」の助動詞「ず」。

参考

語	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	終止形	文法的意味	
ぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	完了・強意・並列	接続
ず	ざら	ざり	ず	ざる	ざれ	ざれ	打消	未然形
								連用形

「どっち？」となるけれど、答えは「打消」。
この場合、「ぬ」の前にはラ行四段動詞「知る」の未然形「知ら」があるので、未然形接続の助動詞である「打消」の「ず」となる。

参考

語	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	終止形
知る	知ら	り	る	る	れ	れ

練習問題 (過去の大学入試問題から)

問 二重傍線部①・②の「ぬ」の文法的意味を答えなさい。

風吹けば 蓮の浮葉に 玉こえて 涼しくなりぬ① ひぐらしの声 (『金葉集』)

この里も 夕立しけり 浅茅生に 露のすがらぬ② 草の葉もなし (『金葉集』)

できたかな? 答えは・・・ **この期間に助動詞を復習しよう!**